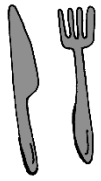


津島分校人権だより 津島分校人権委員会



ひゅーまんらいつ

天国と地獄は同じ場所？！



地獄に行くと、とてもきれいな広い部屋があった。その部屋には大きな円卓があり、その周囲に椅子がズラリと並べられ、座っている人たちがいる。円卓の真ん中にはたくさんのご馳走が置かれている。その人はその様子を見て思った。「なんだ、とても良い場所ではないか。全然地獄ではない」ところが次の瞬間、ひとつ変わったことに気づいた。座っている人たちの前にあるのは、非常に大きなナイフとフォークとスプーンだけ。人々は、料理をとって食べようとするが、ナイフもフォークも大きすぎて食べられない。挙句の果てに、互いの食器がこっちにぶつかる、あっちにぶつかると思いがちが始まった。「なるほど、これは地獄だ！」と彼は地獄を後にした。

今度は天国へ見学に行った。すると、なんと全く同じ状況があった。大きな円卓、周りをぐるりと人が取り囲み、テーブルには料理、そして大きなナイフとフォークとスプーン。ところが、天国では、向かいの人に「〇〇さん。お腹が空いたのではないですか」「そうです、お腹がすきました」「これを取って差し上げましょう」と、そのスプーンで食べさせてあげたのだ。食べた人は「どうもありがとう」と、今度はその人が向かいの人に「〇〇さん、こっちのフルーツをとってさしあげましょう」と。人々は皆、満面の笑顔で幸せそうに食事をしていた。

参考：『きみはなぜ働くか。』渡邊美樹 著

皆さんはこの話を聞いてどのように感じますか？

『天国』と『地獄』の違いは、そこにいる人の「心のあり方」なのです。自分を満たす事だけを考えている人は、長いナイフとフォークとスプーンでいつまでたっても食事を口にすることができず、『地獄』の人々のように、幸せにはなれません。ところが思いやりをもち、優しく温かい気持ちで他の人に食べさせてあげると、自分も同様に食べさせてもらうことができ、長いナイフとフォークとスプーンも障がいにはなりません。

私たちが生きる社会も同じことが言えるのではないのでしょうか。できること、できないこと、得意なこと、苦手なことは人によって様々です。多様性が広く認められ、誰もが尊重される社会をつくるためには、『天国』の人々のように、思いやりの心をもちながら、互いを認め合い、補い合い、助け合うことが不可欠です。新型コロナウイルスの感染拡大後、外出自粛などの規制やあらゆる行事のオンライン化が進み、対人関係の制限がなされる日々が依然として続いています。人との関わりや人の温もりが、私たちの人生を豊かにしてくれることをより一層感じる今こそ、「心の在り方」を見つめ直してみませんか。

《 人権標語・メッセージ入選作品 》



夏休みに全校生徒の皆さんが提出した人権標語・人権メッセージの中から以下の作品が選ばれ、宇和島市の人権作品集「いのち」第17集に掲載されます。また、来週、1月23日（月）～27日（金）の間、宇和島市役所1階のロビーで展示会が開催される予定です。

私たちの辞書に 『差別』という言葉はない
「助けて」と呼べる仲間は きつという
分かち合おう喜び つなごう 心の輪
助け合い 幸せへの 第一歩
私とあなた 「違い」はなに？
ありがとう 笑顔になれる 魔法の言葉
肌の色 目の色 全部私の個性

一年一組 藤村 心優
一年一組 山崎 幹大
一年二組 西川 深乃梨
二年一組 三好 風海
二年一組 渡邊 涼
三年一組 河野 愛奈
三年一組 玉留 歩実



辛そうな1人のあの子に あったか言葉 泣いているあの子を 笑顔にするのは 君次第

一年二組 芝崎 百華

《 人権委員会を経験して… 》



人権委員長 3年1組 河野愛奈

人権・同和教育 HR 活動で劇や発表をして、クラスのみんなと人権について深く考えることができて良かったです。

人権副委員長 3年1組 藤堂末菜

人権啓発ムービーの制作は初めての経験でしたが、みんなに人権問題について考えてもらえる良い機会になりました。

人権委員 3年1組 大庭颯一郎

僕が一番印象に残っているのは、朝の人権デーの放送です。校内放送で喋るのはそのときだけで緊張しましたが、様々な人権課題について考えながら発表できました。

1月10日（火）、教職員対象に人権・同和教育教職員研修会が行われました。先生方も学び続け、人権感覚をブラッシュアップしています！

“無関心な人はいても、無関係の人はいない。”



<今日の感想> () 年 () 組 () 番 氏名 ()
